

どんな職業か

日本庭園や公園などの庭園や緑地を設計し、工事を指揮監督するとともに自ら作業を行い、完成後はその維持管理を行う。

造園の注文を受けたら、まず、注文者の要望に合わせて図面を作成し、土地の測量、地割を行って施工計画を立てる。

実際の造園工事は、人力やブルドーザーなどの建設機械を使って開墾、切土、盛土、除草、客土を行い、地盤を整備することから始める。次に、給水・排水や照明灯など地下配線のための配管やケーブル線を敷地の地下に埋めるが、この作業は専門の業者に委託して行う。

庭の中に園路を作る場合はその位置を決め、池や噴水を作るため土を掘り下げ、その土を使って地面を盛り上げて山をかたどった築山（つきやま）を造る。石を敷いたり組んだりした後、樹木を植える。植栽適期が樹木によって違うことを考慮に入れ、あらかじめ工期・工程を考えて行う。

植栽と前後して藤棚、生け垣やあずまやなど工作物の工事をし、芝や下草、草花の植え込みをしてから除草、清掃などの仕上げをして庭造りを完了する。

完成した庭をよい状態に保つメンテナンス作業も造園師の仕事である。定期的に樹木の剪定（せんてい）や芝の手入れをし、病虫害の防除や施肥（せひ）、土壌改良などを行う。

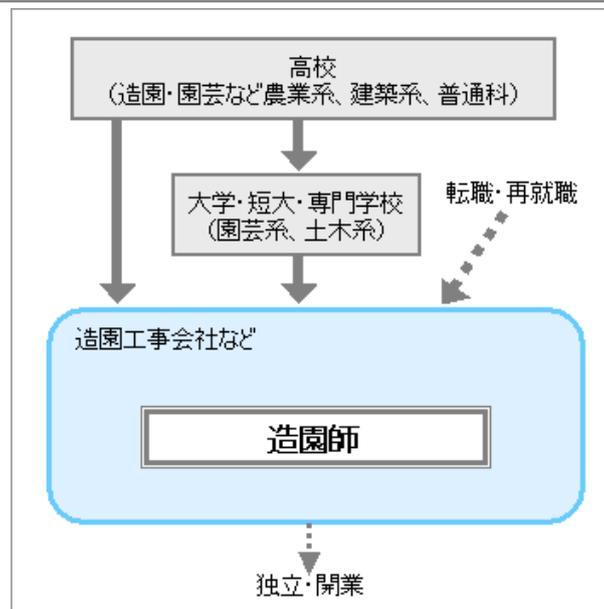
就くには

入職にあたって特に資格は必要とされないが、高校、短大、大学で造園材料、花き園芸や設計、測量、施工法などを学んでから入職する人が増えている。

入職後は、現場での作業や技能講習会などで知識や技術を身につけ、経験を積みながら必要な資格を取得し、一人前の仕事ができるようになっていく。関連する資格として、厚生労働省が実施する技能検定の「造園技能士」や、国土交通省が認定する「造園施工管理技士」があり、造園工事の設計から施工管理までの知識、技能を審査する。

また、造園師が造園工事の全てを自ら行うことは少ないが、地盤整備などに使用する各種建設機械の運転免許、石組などの玉掛や移動式クレーンの操作免許を取得する必要がある。

屋外作業が主で、樹木の手入れには高所作業などがあるので、ある程度の体力や平衡感覚が求められる。また、庭園の設計や造園工事全体の指揮監督を行うため、美的センスが要求される。草木の特徴や扱い方の知識、石材の知識、植物への関心や愛情があることも求められる。



労働条件の特徴

造園業を行っている企業はほとんどが中小企業で、個人経営も多い。

就業者のほとんどが男性であるが、最近では女性も増えている。定年退職後の第二の人生として、植木の維持管理などの仕事に就く人もいる。

労働時間は1日8時間が一般的だが、建築・土木の本体工事につづいて造園工事を行うことが多く、前工程の工事が遅れた時には、工期に間に合わせるために残業が必要になる。屋外作業が中心なので天候の影響を受けやすく、雨の日が休みになる代わりに、日曜日に作業を行うこともある。

以前は造園師が基礎工事、材料運搬から後片付けまで、造園工事全般を行っていたが、工事内容が複雑化するにつれ、専門化、分業化が進んできている。

技術革新と新しい造園材料の開発導入により、屋内、屋上庭園などの人工地盤へと作庭の範囲が拡大しており、工事の対象も個人の住宅庭園から病院、学校、ホテル、工場、集合住宅庭園、高層ビルへと広がっている。また、都市化の進展に伴い、都市郊外公園、公害防止緑地、高速道路のグリーンベルトなど多方面にわたる緑化工事の需要が期待されている。

参考情報

関連団体 社団法人 日本造園組合連合会
<http://www.jflc.or.jp>

社団法人 日本造園建設業協会
<http://www.jalc.or.jp>

関連資格 造園技能士 造園施工管理技士 玉掛技能者